

株式会社HTSライズ

1. 活用推進者

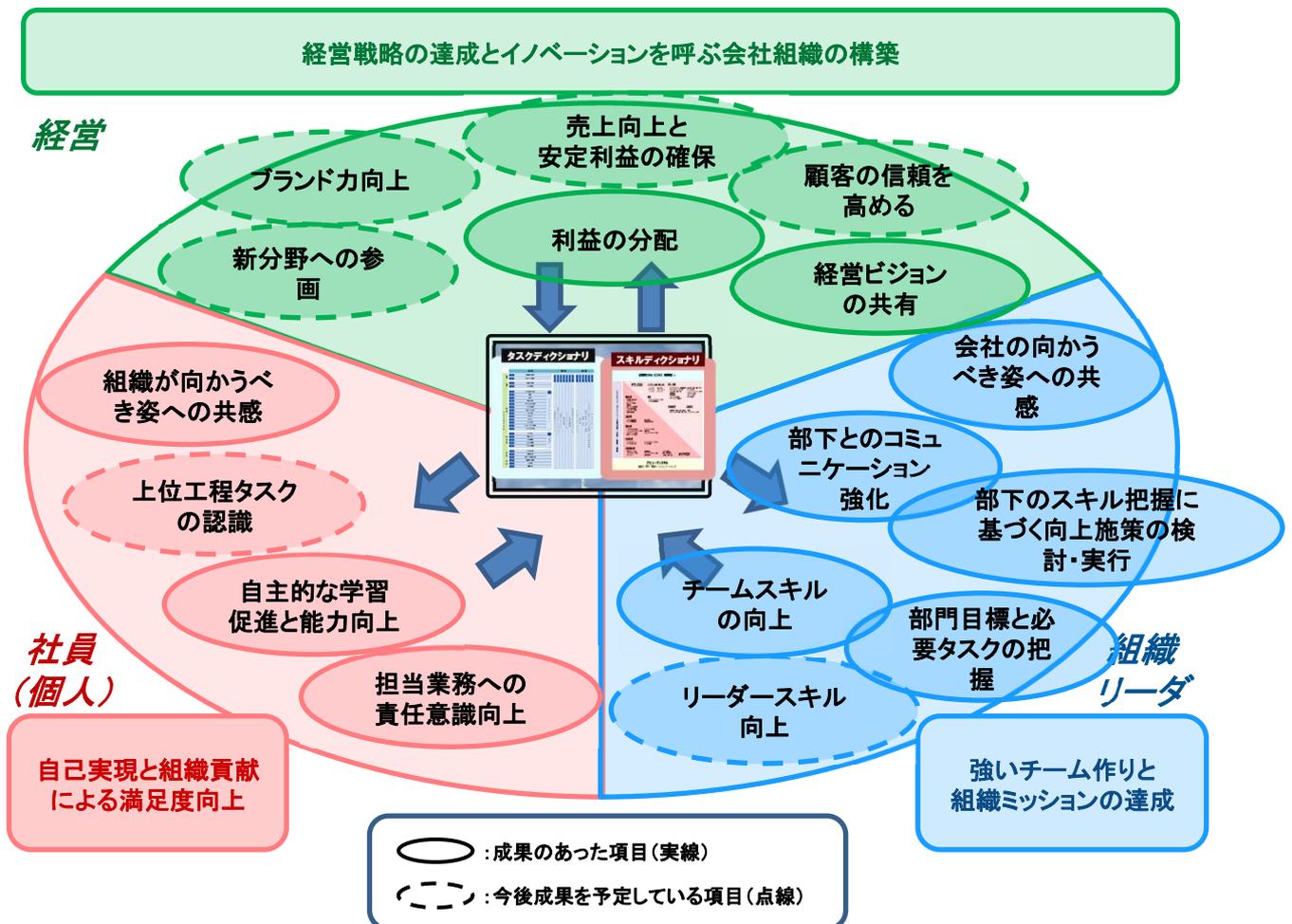
カスタマシステム事業部
システム部
システム2課
課長
中里 嘉宏



2. 会社概要

- 社 名 : 株式会社HTSライズ
- 所 在 地 : 福岡市博多区住吉2-2-1井門博多ビルイースト2階
- 設 立 : 1997年6月23日
- 代 表 者 : 代表取締役 宮原 俊夫
- 資 本 金 : 5,000万円
- 社 員 数 : 81名 (2020年12月)

3. iCD取組み効果



4. iCD取組みの効果及び今後予定する効果内容

4.1. 効果のあった項目	効果内容
経営ビジョンの共有	弊社主催のグループ会社合同合宿に参加(経営層も含め全社員の約60%が参加)し、マインドマップを作成した。さらにiCD活用のワークショップ実施により、経営ビジョンの共有ができた。
利益の分配	賞与の査定基準にiCDの評価結果の「タスクの成長率」を反映(およそ20%)して利益を分配する制度を確立したことで、社員のモチベーションアップに繋げることができた。
会社の向かうべき姿への共感	グループ会社合同合宿でのマインドマップ作成、iCD活用のワークショップの実施により、参加したメンバーから、会社が向かうべき姿に共感を得られた。さらに、各事業部でディスカッションを行い他のメンバーからも共感を得られた。
部下とのコミュニケーション強化	課長と部下が毎月面談を実施し、iCDを活用した目標設定・評価に活用するようにしたことで、コミュニケーションの強化が図れた。
部下のスキル把握に基づく向上施策の検討・実行	タスクの評価項目から行動目標を設定することで、やるべきこと、やらせることが具体的になり、課長の経験に依存しない目標設定指導やスキル向上施策の検討・実行が可能になった。
部門目標と必要タスクの把握	組織のミッションを浸透させ、部門目標達成のための必須タスクを明確化し、展開できるようになった。 必須タスクの認識合わせ(読み合わせ)を実施し、理解度を高めている。
チームスキルの向上	組織目標をiCDのタスクに落とし込み、必要タスクを明確化したスキルアップ指針を策定し、利用するなど、組織(チーム)スキル向上のための環境を充実させることができた。
組織が向かうべき姿への共感	グループ会社合同合宿でのマインドマップ作成、iCD活用のワークショップの実施により、参加したメンバー間から、組織(チーム)が向かうべき姿に共感を得られた。さらに、各事業部でディスカッションを行い他のメンバーからも共感を得られた。
自主的な学習促進と能力向上	自身に必要な新たなタスクやスキルを把握し、目標管理に活用できるようになったことで、自主的な学習を促すことにつながった。
担当業務への責任意識向上	担当者の切り口で目標やタスクを設定し、毎月課長との面談で確認するようにしたことで、業務に対する責任意識が向上した。

4.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
顧客の信頼を高める	社員、組織(チーム)が高い技術力を保持し、迅速に対応する事により顧客の信頼を高める。
売上向上と安定利益の確保	社員と組織の両側面から、幅広いノウハウや高い開発技術を養い、業務拡大や売上向上、売上単価が高い上位工程の仕事へのシフトを実現する。
ブランド力向上	社員、組織の技術力を向上させ、顧客信頼度を高めることによりブランド力の向上を図る。
新分野への参画	コア技術(開発技術、業務ノウハウなど)を習得したチームにより、新分野へ進出する。
リーダースキル向上	目標達成によって部下の信頼を高め、チームの組織力を向上させる。
上位工程タスクの認識	タスクと社内の職務グレードをマッピングし、上位のグレードに求められるタスクを明示することによって、社員がキャリアパスを描くのを手助けする。

5. iCD活用に対する現場からの評価の声



経営者

ITSS導入時には、会社が求める人材像との紐付が困難で、特にトップダウンで実施したため、社員にやらされ感があった。
iCD導入により会社が求める人材とタスクが明確になり、社員が当事者意識を持って具体的に目標設定ができるようになったと感じる。一方でワークショップ参加経験がない社員との温度差を感じており、今後もグループ会社合同宿でのマインドマップ作成およびワークショップの参加を毎年実施し社員の心に火をつけることが重要と考える。



現場リーダー

部下との面談時にiCD評価結果を参照することで、より具体的に目標を設定し、共有できるようになった。また、部下が客観的に強み弱みを判断することができるため、部下自身が率先して、強化したい目標を挙げるようになったことは大きな効果だと思う。社員が主体となって自ら制度改革を推進していくことで、推進メンバーの当事者意識が向上し、社内が活性化した。
運用にあたっては、個人のレベル評価が必ずしも正しいとは言えないため、現状分析や面談などを通じて検証する必要がある。今後は、スキルや資格との紐づけを行う等、客観的に評価しやすい枠組みの検討も進めていきたい。

- ・何をやらないといけないのかという目標を明確化、見える化して設定できた。
- ・世の中のスタンダードが詰まっているため、自分の気づけなかったやるべきタスクも認識できるよい機会となった。
- ・将来的に必要なタスクなども含まれているため、直近に必要な人材像と長期的な観点で必要な人材像が異なる場合がある。重み付けや実施するタスクなどでの調整が必要だと感じた。
- ・部や課の強み、弱みを見る場合、評価基準が個人によって異なる。個人の成長を促すために、どこまで基準を統一すべきか悩ましいが、個人差は縮小していくべきだと思う。
- ・iCD活用が、個人にも大きな効果をもたらすと考えている人と、そうでない人で意欲が異なる。今後は啓蒙活動続けていくことが重要と考える。
- ・iCD活用システム(Web)のみを参照した場合、各タスクと事業部の戦略等との関連性が見えない。自社要件定義との関連や、落とし込んできた経緯が見えると、何のためにやっているのかが分かり、意欲の向上に繋がると思う。



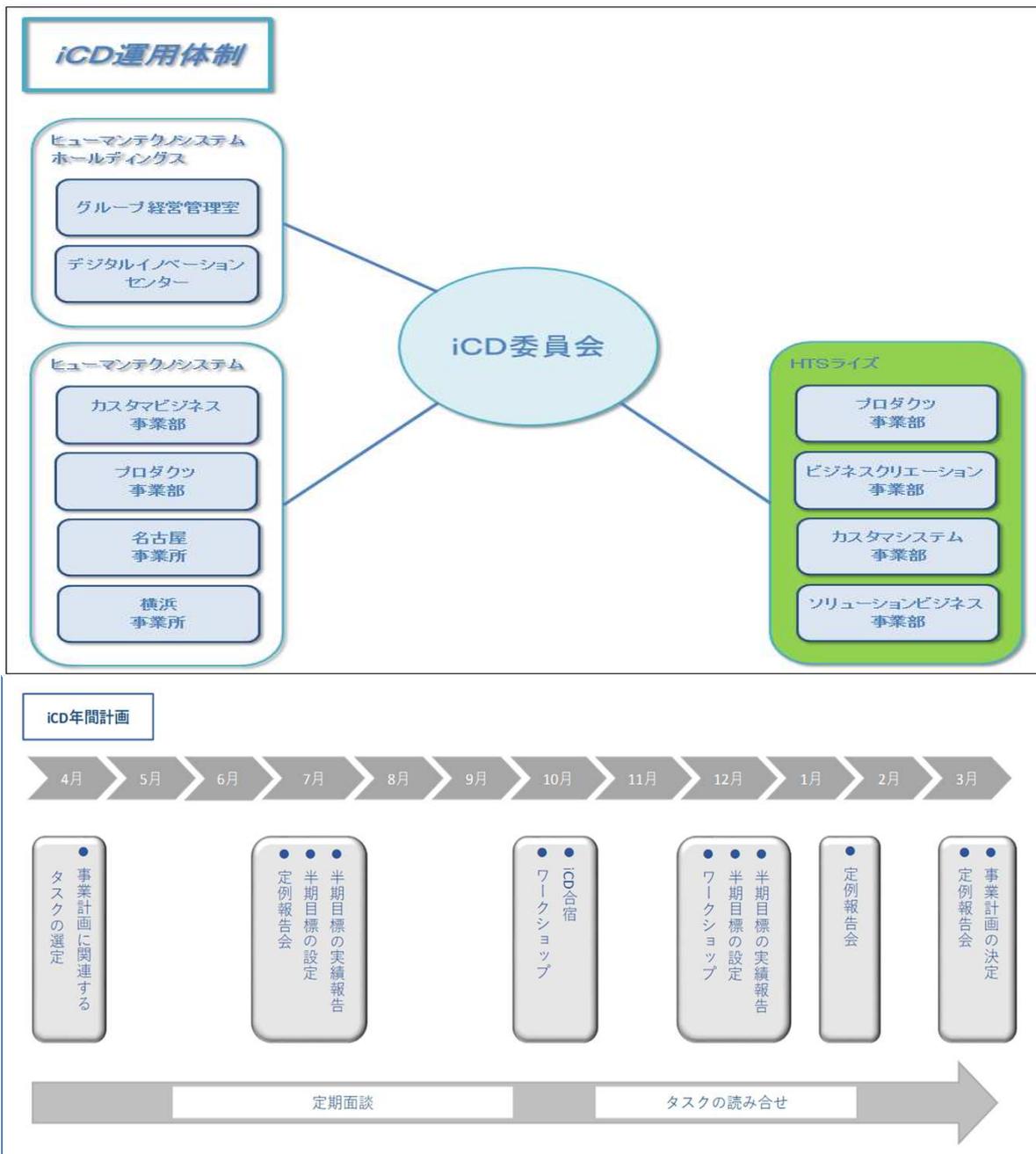
社員

6. iCD取組みの効果(1/2)

当社は、2016年12月に、(株)ヒューマンテクノシステムからの分社という形で設立した。
 (株)HTSライズそのものは新会社だが、2014年度のiCD活用ワークショップに (株)ヒューマンテクノシステムとして参加して以来、HTSグループ全体でiCDの導入・活用に取り組んできた。その取り組みと成果を紹介する。

■運用体制

2016年度よりiCD委員会を立ち上げ、各部署4名程度の委員を選出し運用している。
 四半期ごとに委員を招集し、定例報告会を実施。各社・事業部の取組状況や課題、改善点を報告し合い、課題共有・解決の場としている。



6. iCD取組みの効果(2/2)

■効果項目:利益の分配

賞与の査定基準にiCDの評価結果の「タスクの成長率」を反映(およそ20%)して利益を分配する制度を確立したことで、社員のモチベーションアップに繋げることができた。

■効果項目:会社・組織の向かうべき姿への共感

グループ会社合同合宿でのマインドマップ作成、iCD活用のワークショップの実施により、会社や組織(チーム)が向かうべき姿への理解を深めたうえで共感を得ることができた。

これまで2015~2019年度の5度経営層も含めて参加し、今後も継続して実施する計画。iCD活用のワークショップは、iCDの理解に加え、活用の前提となる会社の理念や方針、目標を共有することを主な目的としており、マインドマップの前年度との比較なども実施する。各事業部で合宿に参加していないメンバーを含めマインドマップのディスカッションを実施。作成したマインドマップを社内の壁面に張り出すなどし、合宿に参加していない社員にも合宿の内容や成果物を展開・共有している。

■効果項目:部下とのコミュニケーション強化、部下のスキル把握に基づく向上施策の検討・実行

課長と部下が毎月面談を実施し、iCDを活用した目標設定・評価に活用するようにしたことで、コミュニケーションの強化が図れた。

タスクの評価項目から行動目標を設定することで、やるべきこと、やらせることが具体的になり、課長と部下の両者が納得できる目標設定、スキル向上施策の検討・実行が可能になった。

課員は、タスクのレベルを上げるために半年間の取組み計画を「目標達成行動シート」に記載し、毎月実施する課長との面談時に、両者で実績を評価する。

■効果項目:部門目標と必要タスクの把握

組織のミッションを浸透させ、部門目標達成のための必須タスクを明確化し、展開できるようになった。

必須タスクの認識合わせ(読み合わせ)を実施し、理解度を高めている。

今年度の事業部の目標を「品質向上」としており、タスクの中から品質に関連するものをピックアップし、目標管理(MBO)に必ず設定するようにしている。

各個人で評価項目の認識のずれがあるため、月1回(1~2時間)品質に関する評価項目を1つずつ社員と議論し、全員の認識合わせ(読み合わせ)を実施している。

大分類	中分類	0		1		2		3		4		5		6		7		8		9		M G	S P I	S P 2	P G		
		S	D	S	D	S	D	S	D	S	D	S	D	S	D	S	D	S	D	S	D					平均	平均
基盤システム構築	基盤システム設計(共通)	0.0	0.0	1.0	2.7	3.0	0.0	1.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	基盤システム設計(プラットフォーム)	0.0	0.0	1.0	2.5	3.0	0.0	1.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	基盤システム設計(データベース)	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.4	1.1	0.0	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	基盤システム設計(ネットワーク)	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	基盤システム設計(システム管理)	0.0	0.0	1.0	3.0	3.0	0.0	1.2	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	基盤システム設計(情報セキュリティ)	0.0	0.0	1.0	2.1	3.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	基盤システム構築-テスト(プラットフォーム)	0.0	0.0	1.0	4.0	3.0	0.0	1.3	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.8	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2	
	基盤システム構築-テスト(データベース)	1.0	1.0	2.0	4.0	2.0	1.3	1.9	1.0	0.0	1.0	1.7	0.0	1.3	0.8	0.7	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	
	基盤システム構築-テスト(ネットワーク)	0.0	1.0	0.5	1.3	3.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	基盤システム構築-テスト(システム管理)	0.0	0.5	0.0	3.0	3.0	0.0	1.1	0.5	0.0	1.0	1.8	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アプリケーションシステム開発	基盤システム構築-テスト(情報セキュリティ)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ソフトウェア要件定義	0.6	1.7	1.8	3.7	2.0	1.1	1.8	2.4	0.7	1.5	1.6	1.8	0.5	1.4	2.1	1.8	1.2	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ソフトウェア方式設計	0.4	0.9	1.8	3.7	2.2	1.2	1.7	0.9	0.7	1.5	1.8	2.1	0.5	1.2	2.3	2.4	1.5	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	開発環境構築	0.7	1.7	1.3	3.7	2.0	0.4	1.6	2.7	0.8	1.0	2.0	1.4	0.4	1.4	1.7	0.2	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	アプリケーション共通基盤設計・構築	0.0	0.5	2.0	3.6	3.0	0.7	1.6	1.0	1.0	1.0	1.4	2.7	0.9	1.3	2.3	0.2	1.5	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	業務プロセス設計	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.8	4.0	1.0	3.0	2.0	3.0	0.0	2.2	3.0	1.0	1.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ソフトウェア詳細設計	0.0	1.3	2.0	3.7	2.0	1.4	1.7	2.3	0.9	1.4	2.1	2.9	1.0	1.8	2.4	2.7	1.4	2.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	ソフトウェアコード作成・単体テスト	0.2	1.8	2.7	4.0	2.0	2.0	2.1	2.3	0.6	2.1	2.8	2.8	1.3	2.0	2.3	2.7	2.0	2.3	0.5	0.5	0.9	0.8	0.2	0.6	0.6	
	ソフトウェア統合テスト	1.2	2.0	2.7	4.0	2.0	2.0	2.3	2.7	0.8	2.3	3.0	2.7	1.5	2.2	2.3	2.8	2.0	2.3	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	
	システムテスト	システムテスト計画策定	4.0	3.0	3.0	4.0	3.0	2.8	3.3	4.0	1.0	2.3	3.0	2.9	2.1	2.5	2.4	3.6	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
システムテスト実施		3.4	3.0	3.0	4.0	3.0	3.0	3.2	4.0	2.0	3.0	3.0	3.0	2.1	2.9	2.6	2.6	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
移行・導入	移行	3.0	3.0	3.0	3.8	3.0	2.9	3.1	4.0	0.0	3.0	2.0	2.9	2.3	2.4	1.0	3.0	0.0	1.3	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.4	
	業入れテスト	4.0	2.0	4.0	3.5	1.0	3.0	2.9	3.0	0.0	1.4	2.4	3.0	0.0	1.6	3.0	3.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.4	
	運用テスト	4.0	3.0	3.0	4.0	1.0	3.0	3.0	4.0	0.0	1.0	2.0	3.0	0.0	1.7	3.0	3.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.4	
ソフトウェア保守	導入	3.7	3.0	3.5	4.0	1.0	2.7	3.0	4.0	0.0	2.0	2.5	2.0	2.1	2.8	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	3.0	0.2	0.0	0.6		
	保守の方針と計画の策定	0.0	3.0	0.0	2.0	3.0	0.0	1.3	4.0	0.0	2.0	1.0	0.3	0.4	1.3	0.6	0.6	2.6	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
ハードウェア・ソフトウェア製品導入設計	問題の調査と分析	0.0	3.0	3.0	3.0	3.0	0.0	2.0	0.0	3.0	2.0	2.8	2.7	2.4	3.0	1.5	3.0	2.5	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.6		
	ハードウェアの導入	1.0	1.0	0.0	4.0	2.0	0.0	1.3	1.0	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
プロジェクトマネジメント	ソフトウェアの導入	1.0	1.0	0.0	4.0	3.0	0.0	1.5	1.0	0.0	1.0	1.9	1.9	0.0	1.0	2.4	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	プロジェクト立ち上げ	1.5	3.0	4.0	2.3	3.0	0.0	2.3	4.0	0.0	1.0	2.4	2.1	0.0	1.6	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.1	